

## がん検診、移植医療に理解 いのちのリレー・市民公開講座

八戸市医師会、市総合健診センター共催のイベント「いのちのリレー・市民公開講座」が21日、同市の「はっち」で開かれ、来場者は、子宮がん検診や移植医療の体験者の話、医師、有識者の講話を通して、検診や臓器移植について理解を深めた。

第1部の「子宮がん検診への取り組み」では、同市の西村産婦人科クリニックの梅本実香院長が「私達の子宮・卵巣を、がんから守るために」と題して基調講演。がんから体を守るには▷がんを知る▷予防する▷検診を受ける一の3点が重要とし、「日頃から健康的な生活を心掛けるのはもちろん、検診をしっかり受けましょう」と呼び掛けた。

その後、デーリー東北新聞社の田沢奈々記者が、本紙の企画「がんを知る」(2017年5～12月掲載)の取材の際に体験した子宮がん検診について感想を述べたほか、同センターの細胞検査士、武部郁枝さんが講

演。

また、八戸学院大健康医療学部の高橋雪子教授が「子宮がん検診に関する教育の必要性」と題し、教育現場での現状を解説。若者の子宮がんについてのアンケート結果などを分析した上で、健康教育の重要性などを訴えた。

第2部では、臓器移植をテーマに、有識者や移植体験者が移植医療について講演し、参加者が熱心に耳を傾けていた。  
(三浦千尋)



子宮がん検診や移植医療について発表や意見交換をした市民公開講座